

厚生労働科学研究費補助金

エイズ対策研究事業

日本の性娯楽施設・産業に係わる人々への  
支援・予防対策の開発に関する学際的研究

平成 18 年度 総括・分担研究報告書

主任研究者 東 優子

平成 19 年 (2007) 年 3 月

# 目 次

I	総括研究報告		
	日本の性娯楽施設・産業に係わる人々への支援・予防対策の開発に関する学 際的研究	・・・・・・・・・・東 優子	1
II	分担研究報告		
	Project A 性娯楽施設・産業を利用する男性に関する研究	・・・・・・・・・・徐 淑子他	5
	Project B 本研究プロジェクトの課題をめぐる先行知見のまとめ —90年代以降の日本におけるセックスワークをめぐる議論を中心として—	・・・・・・・・・・澁谷 知美	28
	Project C 一般女性における性意識と性行動 —セクシュアルヘルスとメンタルヘルスの観点から—	・・・・・・・・・・野坂 祐子	41
	Project D 性娯楽施設・産業に係る人々への HIV/AIDS 予防介入の可能性 —海外の先行事例の検討を通して—	・・・・・・・・・・中村 美亜	48
III	資料編		67
	男たちの「性と生」緊急大アンケート (『週刊ポスト』Vol. 38(48), 2006/11/17, pp. 93-97)		
	不倫・夫婦・風俗・エイズ 週刊誌初! 厚生労働科研「研究班」と合同調査 男たち 2000 人(アンケート)の「性と生」乱倫報告 (『週刊ポスト』Vol. 38(53), 2006/12/22, pp. 168-179)		
	鈴木京一「性風俗の学術調査 大衆週刊誌が一役」 (朝日新聞全国版 2007年2月8日朝刊)		

## 日本の性娯楽施設・産業に係わる人々への支援・予防対策の開発に関する学際的研究

### 研究要旨

本研究の目的は、「性娯楽施設・産業 (sex entertainment/industry) に係る人々」のリスク行動の実態、感染への脆弱性と社会的諸要因の関連を学際的に調査・分析し、当該集団に固有かつ有効な HIV/AIDS 対策を提示することにある。研究成果およびキーパーソンとのソーシャル・ネットワーキングを通じて、有効な「しかけ」の検討と実践を行い、当事者の well-being およびわが国における HIV/AIDS 対策事業に貢献する。

#### A. 性娯楽施設・産業を利用する男性に関する研究

男性利用者(顧客)の実態を把握することを目的とし、男性向け大衆誌の協力を得て、意識・行動に

関する質問紙調査【初年度】及び、男性利用客に対する半構造化面接【2年目】を実施する。以上により、感染への脆弱性と社会的諸要因の関連を分析し、予防啓発活動(以下D)の展開へとつなげる【3年目】。

#### B. 性娯楽施設・産業従業者(CSW)に関する研究

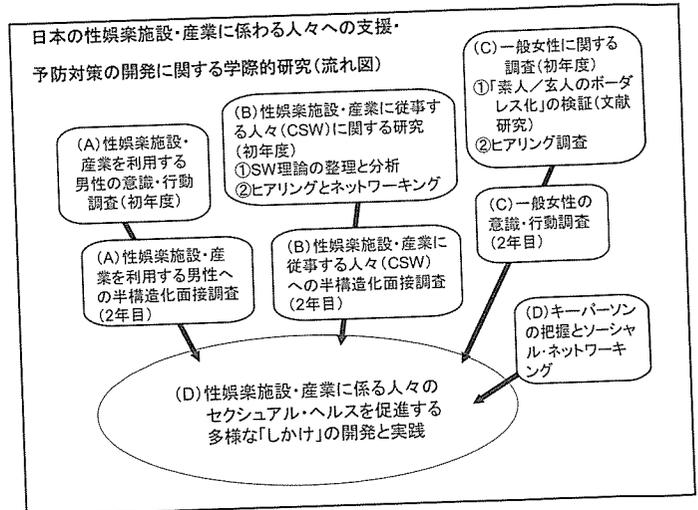
セックスワーク理論の整理および分析を通じて当事者支援のありようを検討する(文献研究)と同時に、次年度以降の準備としてコミュニティにおけるヒアリングを行い、キーパーソンの把握とネットワーキングを試みる【初年度】。顧客や経営者など他者との関係性を含めたセイフター・セックスの阻害要因の把握と有効な介入手法を開発することを目的として、CSWに対する半構造化面接を実施する【2年目】。以上により、感染への脆弱性と社会的諸要因の関連を分析し、予防啓発活動(以下D)の展開へとつなげる【3年目】。

#### C. 「一般女性」の実態調査

文献研究及び関係者へのヒアリング調査を通じて、性風俗産業の多様化と「素人/玄人のボーダレス化現象」を検証する【初年度】。青年女子および女性向け雑誌の協力を得て、擬似CSW及びCSW予備軍としての「一般女性」の意識・行動調査を実施する【2年目】。以上により、感染への脆弱性と社会的諸要因の関連を分析し、予防啓発活動(以下D)の展開へとつなげる【3年目】。

#### D. 性娯楽施設・産業に係る人々のセクシュアル・ヘルスを促進する多様な「しかけ」の検討・開発と実践

アクセスが困難な当該集団におけるキーパーソンの把握、および支援組織、地方公共団体や関連マスコミなど他セクターとの連携を試みる。ソーシャル・ネットワーキングの過程で、関係者に対するヒアリングを行い、有効かつ実現可能なプログラムの検討を行う【初年度】。上記A~Cの成果も踏まえ、インターネットなどによる情報提供、ピア教育プロジェクト、人材開発セミナーなど、具体的かつ直接的支援・予防介入プログラムを開発し、実践していく【2・3年目】。



研究課題：日本の性娯楽施設・産業に係わる人々への支援・予防対策の開発に関する学際的研究

課題番号：H18-エイズ一般-014

主任研究者：東 優子（大阪府立大学人間社会学部 助教授）

分担研究者：池上 千寿子（特定非営利活動法人・ぶれいす東京 代表）、生島 嗣（特定非営利活動法人・ぶれいす東京 運営委員長）、徐 淑子（新潟県立看護大学看護学部 講師）、野坂 祐子（大阪教育大学・学校危機メンタルサポートセンター 講師）、澁谷 知美（東京女学館大学 非常勤講師）

## 1. 研究目的

研究全体の目的は、「性娯楽施設・産業に係る人々」のリスク行動の実態、感染への脆弱性と社会的諸要因の関連を学際的に調査・分析し、当該集団に固有かつ有効な HIV/AIDS 対策を提示すること、研究成果およびキーパーソンとのソーシャル・ネットワーキングを通じて、有効な「しかけ」の検討と実践を行い、当事者の well-being およびわが国における HIV/AIDS 対策事業に貢献することにある。本研究は 4 つの柱（A～D）で構成されており、各目的は以下の通りである。

A. 性娯楽施設・産業を利用する男性に関する研究：顧客の感染脆弱性および予防対策ニーズを明らかにする。B. 性娯楽施設・産業従業者（CSW）に関する研究：顧客や経営者など他者との関係性を含めたセイファー・セックスの阻害要因の把握と有効な介入手法を開発する。C. 「一般女性」の実態調査：「一般女性」の HIV/AIDS の感染リスク認知/行動を検証する。D. 性娯楽施設・産業に係る人々のセクシュアル・ヘルスを促進する多様な「しかけ」の検討・開発と実践：（1）当該集団におけるキーパーソンの把握、および支援組織、地方公共団体や関連マスコミなど他セクターとの連携、（2）効果的な事例の収集と資料化を通じて、有効かつ実現可能なプログラムの検討と実践を行う。

## 2. 研究方法

A. では、（1）性娯楽産業の男性利用者（顧客）のリスク行動、HIV/STD 感染予防行動（コンドーム使用行動を中心とする）、検査・受診行動および HIV/STD 予防にたいする意識・態度について調べるべく、先行研究レビューに基づいて多肢選択法にもとづく質問紙を作成した。（2）男性週刊誌（発行部数 60 万部）との共同企画として誌上に質問を掲載し、男性顧客の利用状況および HIV/STDs 予防に関する意識・行動を調査した（集票期間：2006 年 1 月 6 日～26 日）。B. では、（1）文献研究として、1990 年代以降、日本語で書かれた人文社会系研究者によるセックスワークにまつわる文献をデータベースによる検索または芋づる式に収集、整理し、①「セックスワーク論」の整理と分析として、90 年代以降の人文社会系の文献における、研究者、当事者の言論、②本研究

班の課題への当事者やサポーターの意見を整理、分析した。さらに、（2）次年度の調査に向けた準備としてキーパーソンの把握とネットワーキングを試みた。C. では、女性の性意識・性行動に関する先行研究および社会的言説を収集するため、おもに心理学、社会学、臨床心理・精神医学および周辺領域の書籍・学術論文を中心に概観した。検索手続きは、PsychLit や PubMed 等の学術論文データベースを参考に、広く本テーマに関連する文献を収集した。D. では、（1）当該集団におけるキーパーソンを招聘した「勉強会」の開催、（2）PubMed その他の検索エンジンを使って、諸外国（英文）文献を収集し、①男性顧客、②非店舗型、③予防啓発、④当事者活動に分類した。

（倫理面への配慮）

倫理的配慮については、大阪府立大学人間社会学部の研究倫理委員会の承認を受けている。質問紙調査やヒアリング/インタビューでは、つねにプライバシーについて配慮し、研究の目的、データの保管や利用について明確にし、自由記述については引用の諾否をあらかじめ求め、自発的に協力してくれる対象のみに参加してもらうようにしている。成果発表では、研究協力者が同定されかねないような情報は改変したり、非公表扱いとする。回答・インタビュー記録は研究目的以外に使用しない。研究補助を行う者についても、補助作業において知れた情報を口外しないよう指導を徹底している。

## 3. 研究結果と考察

A. について、回収されたのは 2,124 票で、うち有効票は 1,999 票であった。業態別にみたサービスの利用状況は、「ソープランド」が多く、過去 1 年間の利用とコンドーム使用の関係については、利用者（67.9%）のうち 75%が「挿入」を伴うサービスを受け、内 3 割がコンドームを使用していなかった。さらなる検討を加えるべく、自記式質問紙法（郵送法）による調査（平成 19 年度に実施する第二次調査）への協力を求めたところ、回答者の 72%に当たる 1,440 名が継続調査の質問紙送付を承諾した。

B. については、文献調査において、①90 年代以降の人文社会系の文献における、研究者、当事者の言論を整理したところ、言論の担い手やアジェンダの相違によって大きく 3 つの時期（第 1

期：是非論の時代、第Ⅱ期：当事者視点の導入の提案・「買春」への視点、第Ⅲ期：当事者からのフィードバック)に区分けすることができた。現在は第Ⅲ期的な状況が細く長く継続しつつ、ジャーナリストによって、既存の「セックスワーク」の範疇にはおさまりきれない形での不特定多数を対象とした性交渉の報告がなされている(擬似的ワーク)。ボランティアでセックスをする人びとや男性CSWは、今回の研究班の対象になってはいないが、「女性のCSW」の隣に、類似しながら異なる集団が生起しつつあることは、書きとめておいてよい。また、②本研究の課題にたいする当事者やサポーターの見解を整理・分析したところ、「男性顧客の実態把握」(A)に関しては、男性利用者のバックグラウンドは様々であること、「買春」の事実は男性によってそれほど公然化されないこと、などが示唆された。「当事者(CSW)支援の望ましいあり方」(B)については、当事者(CSW)のニーズの多様性を理解する、効果のある施策でも施策法を間違えると負の効果を生むということが指摘されていることがわかった。さらに「一般女性における素人/玄人のボーダレス化現象の実態把握」(C)については、ワーカーに統一イメージはないこと、ワーカーとしての自覚のないワーカーが存在することなどが示唆された。

Cにおいては、いわゆる一般女性における性意識と性行動に関する先行研究を概観し、女性の性意識と性行動、金銭が介在する性行動に関する認識と態度、性的関係における性暴力、性暴力被害とHIV感染リスクの4点からまとめた。女性の性行動においては、性行動に関する語りにもみられる性意識や性交渉経験率が示されているものの、金銭を媒介とするCSW的な行為についての意識や実態を知る手がかりはあまり得られなかった。CSWの就労形態の変化とそれに直接的/間接的に関わる女性の意識や行動については、今後も検討が必要である。また、性的体験のうち性的強要を伴う性暴力体験は女性の多くが経験している出来事であり、レイプや性虐待などHIV感染のリスクを伴う被害も少なくないことが明らかになった。こうした行為は、配偶者や恋人などステディな性的関係にある相手によってなされることがほとんどであったことから、女性のセクシュアルヘルスとメンタルヘルスを考えるうえで、性的関係性におけるジェンダー格差については、研究および介入を進めるうえで欠かせない視点であるといえよう。

Dについては、(1)当該集団におけるキーパーソンを招聘した「勉強会」の成果を現在、資料化している最中である。(2)これまでに入手できた34本の論文、4冊の書籍、2冊の冊子を分類し、効果的な事例を収集した。

#### 4. 考察

上記3. に併せて記載

#### 5. 自己評価

##### 1) 達成度について

性娯楽施設・産業を利用する男性に関する研究(A)・性娯楽施設・産業従業者に関する研究(B)については、共に、初年度に行った調査の進行状況に遅れはなく、次年度に必要なデータ、周辺情報の獲得および情報提供者のネットワークングに成果がみられる。「一般女性」の実態調査(C)については、基礎になる文献研究が済んだ段階にあり、予定していた「一般女性」へのヒアリングは次年度に実施する。性娯楽施設・産業に係る人々のセクシュアル・ヘルスを促進する多様な「しかけ」の検討・開発と実践(D)については、アクセスが困難な当該集団におけるキーパーソンの把握を重点的に行うなど、「しかけ」の検討に向けた準備は良好である。また、諸外国の文献研究により、効果的な事例の収集と資料化も順調に進んでおり、最終的な目的である「しかけ」の実践につながることを期待される。

##### 2) 研究成果の学術的・国際的・社会的意義について

今日のキーワードは「性風俗の多様化」と「素人/玄人のボーダレス化」である。本研究では、海外の文献に登場するfull-time/part time/freelance sex workerといった概念や「性風俗店」に限定しない「性娯楽施設・産業」(sex entertainment establishment/industry)を視野に含めた研究を行い、新たな当事者として登場してきた彼/彼女らの実態とニーズの把握にも努めている。また、国内外の先行研究がほとんど対象としてこなかった「男性利用者」を対象とした調査については、研究成果が学術的な意義をもつことはもとより、大衆誌と共の同企画が実現したことにより、予防キャンペーンとしての社会的意義も有している。

##### 3) 今後の展望について

これまで4つの研究の柱は順調に進んでおり、ソーシャル・ネットワークングの成果とあわせて、さらなる展開が期待される。

#### 6. 結論

文献研究の結果により、当事者やそのサポーターが示している見解は以下のものであり、これらに注意しながら、次年度の研究を進めてゆきたい。

1「当事者(CSW)支援の望ましいあり方」 当事者のニーズの多様性を把握すること、効果のある施策でも施策法を間違えると負の効果を生むことを銘記すること。

2「セイファーセックスの阻害要因」 客や店舗の無理解が最大の要因である。しかし、客の理解を得ること、店の方針を改めることは不可能ではない。

3「男性利用者の実態把握」 男性利用者のバックグラウンド

はさまざまである。また、サービス利用者であることをいつでもどこでも公然化できる男性は多くはない。客のプライバシーに配慮した施策が必要。

#### 7. 知的所有権の出願・取得状況（予定を含む）

特になし

#### 8. 研究発表

主任研究者

東 優子

和文

- 1) 東優子. リプロダクティブヘルス. 季刊セクシュアリティ. 2007 (4月号に掲載予定).

口頭発表

海外

- 1) Higashi, Y., Sookja, S., Ikegami, C., Nosaka, S., Katsumata, S. (2007). Two thousand (2000) Japanese men and their utilization of sex entertainment establishment/industry. The 18<sup>th</sup> World Congress of WAS/First World Congress for Sexual Health April 15-19, 2007, Sydney, Australia.

分担研究者

池上 千寿子

和文

- 1) 池上千寿子. 薬剤師に期待するHIV感染症患者への服薬援助. 薬局 (別冊). 57:2881-2888, 2006.
- 2) 池上千寿子. ハイリスクグループに対するHIV予防啓発の現状はどうなっていますか?. HIV Q&A 改訂版 (医療ジャーナル社). 40-41, 2006.
- 3) 池上千寿子. 性教育このままでいいの?. Ayus. 72: 6-7, 2006.

4) 池上千寿子. どうしたら予防を必ず実践できる人が増えるのか. 家族と健康. 9: 4-5, 2006.

5) 池上千寿子, 市川誠一, 伊藤聡子, 宮田一雄. HIV/AIDS 2006. モダンメディア. 52: 1-25, 2006.

6) 池上千寿子, 伊藤聡子, 岩室紳也, 稲垣智一. エイズをめぐる非営利組織の活動と課題. 公衆衛生. 70: 551-556, 629-634, 2006.

徐 淑子

和文

- 1) 大学生男子のコンドーム使用とパートナーとの関係. 性・性と健康. 5:20-22, 2006.

野坂 祐子

口頭発表

海外

- 1) Nosaka, S., Yoshida, H. (2006). Sexual Victimization. *Japanese Childhood. International Society for Traumatic Stress Studies 22nd Annual Meeting Final program and Proceeding*, p.204.
- 2) Yoshida, H., Konishi, T., Nosaka S. (2006). Mental Illness in Intimate Partner Violence. *Japanese Childhood. International Society for Traumatic Stress Studies 22nd Annual Meeting Final program and Proceeding*, p.166.

澁谷 知美

口頭発表

国内

- 1) 澁谷知美, 無防備なセックスをする男子とはどんな男子か——1999年「青少年の性行動」調査の二次分析, 家族問題研究会2006年度シンポジウム「世代とセクシュアリティ」明治大学駿河台校舎, 2006年7月1日.

## 性娯楽施設・産業を利用する男性に関する研究

徐 淑子(新潟県立大学 講師) 東 優子(大阪府立大学 助教授)

池上 千寿子(ふれいす東京 代表) 野坂 祐子(大阪教育大学 講師)

### 研究要旨

日本における成人異性愛男性の性娯楽産業利用状況および HIV/STDs 予防にかんする意識・行動を調査し、HIV/STDs にたいする感染脆弱性および予防対策ニーズを検討することを目的として、公称 60 万部発行の男性週刊誌(主たる読者層 30-50 代男性)と合同アンケートを企画し、その読者のうち、性娯楽産業の利用経験のある男性を対象とした。配布および回収は、上述のとおり、男性週刊誌をとおして配布を行った。調査期間は、2006 年 11 月 6 日から 11 月 27 日までの 3 週間とした。2,202 票を回収した(公称発行部数の 0.37%)。うち、有効票は 1,784 票であった。結果について、1)回答者の属性、2)性娯楽サービスの利用状況、3)コンドーム使用、4)性風俗店を選ぶ基準、5)健康リスクの認知、6)性感染症罹患経験、HIV 受検行動などについて分析・考察した。

### 1. 研究目的

日本における成人異性愛男性の性娯楽産業利用状況および HIV/STDs 予防にかんする意識・行動を調査し、HIV/STDs にたいする予防対策ニーズを同定することを目的とする。

成人異性愛男性の性娯楽産業(性風俗サービス)利用については、生涯経験率などについての報告が散見される。しかし、利用頻度、よく利用する業態、受け取ったサービスの内容、コンドーム使用などについて、「性の健康」という観点からつまびらかにした学術調査はない。

本研究は、3 年間の継続研究として構想された調査の初年度調査であり、従来、風説のみで実態がよくわからないとされてきた男性顧客層についての基本情報を収集し、研究成果の具体的施策への反映についての手がかりを得ることが期待される。

### 2. 研究方法

#### 1) 対象

公称 60 万部発行の男性週刊誌(主たる読者層 30-50 代男性)と合同アンケートを企画し、その読者のうち、性娯楽産業の利用経験のある男性を対象とした。

#### 2) 方法

##### ① 質問紙の形式

自記式質問紙調査法とした。

週刊誌に調査の主旨説明およびお願い文、質問項目を掲載し、折込みのマークシート式ハガキに答えを記入して返送してもらった。質問項目は、すべて多肢選択方式とした。

調査インセンティブを用意したため、インセンティブ送付を希望する回答者には、郵便番号、住所、氏名を記入してもらった。したがって、本調査は無記名調査ではない。

##### ② 配布および回収

上述のとおり、男性週刊誌をとおして配布を行った。調査対象を各種メディアを用いて募集する方法は、募集法という調査法に該当する。この調査法の特質として、1)広い地域に分散して把握困難な対象にアクセスできる、2)自発的応募である、の 2 点が挙げられる。

調査インセンティブとして、先着 2,000 名分の商品カード(500 円)を用意した。

##### ③ 調査期間および回収票数

調査期間は、2006 年 11 月 6 日から 11 月 27 日までの 3 週間とした。2,202 票を回収した(公称発行部数の 0.37%)。うち、有効票は 1,784 票であった。

#### 3) 調査内容

25 項目からなる質問紙を独自に作成した。調査内容は、以下のとおりである。

・ 年齢、職業、最終学歴、婚姻状況、お小遣い(月額)

- ・ 性娯楽産業の業態別利用経験
- ・ 最近1年間の利用頻度・価格
- ・ 受けとったことのある性娯楽サービスの内容
- ・ 性娯楽サービス利用の理由・動機
- ・ 性娯楽店を選ぶ基準
- ・ コンドーム使用行動
- ・ エイズ・性感染症・その他の疾病についての罹患可能性の自己評価
- ・ HIV抗体検査受検行動。

なお、性娯楽(sex entertainment)ということばは、一般的に理解されにくいいため、質問紙ではこの用語にかわり「性風俗」ということばを用いた。

男性週刊誌との合同企画であるため、週刊誌編集部が別途22項目の質問項目を質問紙の後半部分として作成した。この22項目は本研究の分析対象としない。

#### (倫理面への配慮)

当研究課題は、大阪府立大学人間社会学部(主任研究者所属)の研究倫理委員会の審査を受け、承認された。

また、当研究課題では、研究倫理面について以下のような配慮をした。

- ・ 調査協力の呼びかけ文で、研究の目的、データの保管や利用について研究班の方針を明確に記述した。
- ・ 調査への参加は、研究目的・研究班の方針についての理解・了解が得られる自発的な意思に基づいてなされる形式とした。
- ・ 質問はすべて多肢選択式とした。回答および調査結果は、数値化して統計的に扱った。
- ・ 回答ハガキおよびインセンティブ送付用封筒には、研究班の正式名称、「エイズ」「性風俗」などのことばを印刷せず、第三者に内容がいつさい推定できないようにした。
- ・ 調査インセンティブおよび第二調査質問紙送付のための個人情報、質問紙データ本体と照合できない形で入力処理した。
- ・ 質問紙本体(回答ハガキ)およびデータは厳重に保管し、直接研究に携わる者および東班が特別に定めた者以外が取り扱えないよう、厳しい制限を設けた。
- ・ 研究補助を行う者について、研究班の研究倫理の方針を指導し、班員と同等に遵守させた。

### 3. 研究結果

主たる調査結果について、以下に報告する。詳細については、付表を参考にされたい。

#### 1) 回答者の属性

年齢では、40代32.1%、50代30.7%と、40-60歳までの年齢層に属する回答者が多かった。職業では、5割が会社員・公務員の被雇用者であった。学歴は、高卒36.7%、大卒41.4%であった。月額お小遣いは、5万円未満が約5割であった。結婚している人は、全体の6割であった(以上、付表・I 1-5)。

最近1年間に性風俗サービスを利用した人は、全体の68.9%であった。

また、74.0%が、第二次調査に協力してもよいと回答した(以上、付表・単純集計1-47)。

#### 2) 性娯楽サービスの利用状況

① 「今までに利用したことのある性風俗サービス」「よく利用する性風俗サービス」「もっとも最近に利用した風俗サービス」の3項目で、男性顧客層の業態別性娯楽サービス利用状況を調査した。

いずれの項目でも、「ソープランド」「店舗型ヘルス」が上位2位となった。また、「ピンクサロン」も2項目で3位となった(付表II1)。

以上3項目を年齢別にみると、40歳以下の比較的若い層では「店舗型ヘルス」、41歳以上では「ソープランド」の利用率が高いことが示された(付表II2)。

②つぎに、よく利用する性風俗サービスについて主成分分析を行い、複数の業態を利用する人の選択傾向を調べた。

第I成分で主成分係数の高い業態は、「温泉コンパニオン」「バー・スナックの連れ出し」等であり、逆に、「店舗型ヘルス」は絶対値が高いもののマイナスであったため、これを、立地地域(都市/都市以外)を示すもの解釈した。第II成分は、同様に、「本番サービスの有無」を示すものと解釈した。

結果より、都市に多い店舗型ヘルスの利用者層と「バー・スナック」の利用者層は重ならない、また、「ソープランド」の利用者層は本番サービスがないとされている「風俗系エステ」の利用者層と重ならないことが示唆された(付表III1および図1)。

③ 性風俗を利用する理由・動機 「性欲解消の手段として(57.1%)」「出張先・旅行先の楽しみとして(35.4%)」「風俗はあとくされがないから(32.3%)」などの順となった。また、「友人・知人・先輩に誘われて」という対人的な理由を挙げた人が22.5%となった(付表I 10)。

### 3) コンドーム使用

① もっとも最近の性風俗利用でコンドームを使用した人は、「挿入行為(口・膣・肛門)があった」と答えた人の67.0%となった。これを業態別にみると、「ピンクサロン」で28.2%と3割以下である他、「バー・スナックの連れ出し」「店舗型ヘルス」「派遣型ヘルス」が6割前後であった(付表IV1)。

② 「バー・スナックの連れ出し」「温泉コンパニオン等」利用で挿入行為があったと答えた人は、いずれも95%前後と高率である一方、コンドーム使用は56-66%と、おなじく挿入行為の伴う率の高かった「ソープランド」78.6%と比較して、低率であった(付表IV1)。

③ ふだんのコンドーム使用を、「性風俗以外」「性風俗でのフェラチオ(口腔性交)」「性風俗での本番(膣性交)」「性風俗でのアナル(肛門性交)」の4つについて答えてもらった(5段階評定 1「常に使用」-5「全く使用しない」)。「常にコンドームを使う」と答えた人は、順に、20.8%、7.7%、38.8%、63.4%となった。性風俗では、口腔性交でのコンドーム常用者が1割に満たず、膣性交でも4割に達しなかった(付表IV2)。

④ コンドーム使用についての回答に、1点「常に使用」-5点「全く使用しない」を割り振って得点化し、その平均値を年齢別に比較した。「性風俗以外」「性風俗本番」での得点が若年層で低く中年以降で高くなる傾向があり、中年以降層でとくにコンドーム常用率が下がることが推察された(付表IV2)。

### 4) 性風俗店を選ぶ基準

「リピートしたくなる風俗店」について10の質問項目で評価してもらった。評価は「全く重視しない」から「非常に重視する」までの4段階とし、「全く重視しな

い」に1点、「非常に重視する」に4点を割り振って得点化した。

① 10項目の平均評定点をみたところ、「本番サービスがあること」「生のサービスあること」はとくに評価基準として重視されていないことが示された。「エイズ・性感染症予防に気を配っていること」は平均3.5点、一方「コンドームが必須であること」は2.6点と、およそ1階級の開きがあった(図2)。

② 分散分析の結果では、「接客する女性が好みである」「手ごろな値段である」の2項目以外で、年齢別平均評定点に統計的に有意な違いは示されなかった(付表V1)。

③ 主成分分析を行い、10の質問項目から得られた情報を集約した。その結果、3成分が抽出された。各項目の主成分係数の大きさより、第1成分を「衛生管理が行き届き清潔感があること」、第2成分を「接客と値段がつりあい安全に遊べること」、第3成分を「本番・生のサービスがあること」と解釈した(付表V2)。

④ 主成分係数の大きさで各項目をグルーピングしたところ、図2のようになった(図2では各項目の帰属を視覚的によりわかりやすくするため、第I成分と第III成分を軸にとった)。「コンドームが必須」「ユスリ・ボッタクリがなく安全に遊べる」は、二つ以上の成分で主成分係数が0.3以上となったため、他のグループから独立していると解釈した。第III成分に注目すると、「生のサービス」「本番があること」のグループと「コンドームが必須」の間にはもっとも大きな隔りがあった。

### 5) 健康リスクの認知

「これからの人生で、あなた自身が次の病気にかかる可能性はどれくらいあると思いますか?」という質問で、「風邪やインフルエンザ」「がん・脳卒中・心臓病」「性感染症」「エイズ」「BSE感染症」の5つの疾病に対する健康リスク認知度を測定した。5段階評定の平均評定点は、付表IVおよび図4に示すとおりである。

分散分析の結果では、各疾病での年齢別平均点に若干

の上下があるものの、どの年齢層でも、「風邪やインフルエンザ」が最も高く、「BSE 感染症」が最も低いなど、ほぼ同じパターンとなった。

また、どの年齢層でも、エイズにかかる可能性よりその他の性感染症にかかる可能性の方が大きいと見積もる傾向があることが示唆された。

#### 6) 性感染症罹患経験、HIV 受検行動など

- ① エイズや性感染症にかかったことのある人を直接・間接に聞いたことがあるかどうかを尋ねたところ、エイズでは 2.4-6.3%、エイズ以外の性感染症では 32.5-37.0%であった(付表 I 22)。
- ② 回答者自身の性感染症罹患経験を尋ねたところ、25.2%が「ある」と回答した(付表 I 23)。
- ③ HIV 検査を受けたことがあるかどうかを尋ねたところ、24.6%が「ある」と回答した(付表 I 24)

## 4. 考察

以上より、本調査結果より示唆された主要な点について、簡潔に記述する。

### 1) 男性顧客層の下位集団について

利用業態と年齢層は、おおまかに一致する傾向があった。

若年層の店舗型ヘルス利用者と中年層以上のソープランド利用者が、二つの大きな下位集団である。

上の二つの業態は、都市部居住者あるいは都市部にアクセスのある者が主たる利用者である可能性がある。

そこで、温泉コンパニオン、バー・スナックの連れ出しなど、主として都市部以外で提供される性娯楽サービスの利用者層を第 3 のグループとして設定する。都市部で展開する業態とは異なる予防啓発の方法が必要であろう。また、性器挿入をとまなうサービスが高率で提供される一方、コンドーム使用率はソープランドと比較して低く、この点でも特徴づけられる。

さらに、利用率がソープランド、店舗型ヘルスについて、3 番目に高いが、コンドーム使用率は 3 割未満と低率なピンクサロン利用者層を第 4 のグループとして設定したい。

以上は、今年度調査結果にもとづく暫定的なグループ

設定である。次年度以降の継続調査において、以上が妥当かどうか、詳細に検討する。

### 2) コンドーム使用について

業態によって、コンドーム使用率が異なる。これは、当然、提供されるサービス内容が異なることに関係する。

上の項目 1) で示した二大業態では、ソープランドが本番系(膣性交のある)、店舗型ヘルスが(膣性交がない)非本番系である。

ソープランドでは、挿入行為があったと自己報告した回答者のうち、7 割程度がコンドームを使用したと答えているが、口腔性交(オーラル・セックス、フェラチオ)でのコンドーム使用がどの程度であったかは調査結果からは不明である。

ソープランド利用者層では、口腔性交でのコンドーム使用の実態把握とともに、使用率のアップが予防施策の目安となろう。

店舗型ヘルスでは、6 割程度のコンドーム使用率であった。

非本番系とされている業態では、ピンクサロン・ヌキキャバでの使用率が低く、顧客・経営者を対象とした啓発がとくに必要であると考えられる。

口腔性交でのコンドーム使用は接客女性の健康を守る上で重要であり、今後の予防施策上の課題になると思われる。

### 3) 性娯楽サービスの選択基準

選択基準の評定平均点からは、「生のサービス」が特別に重視されるという傾向は、明らかにされなかった。しかし、主成分分析の結果からは、「生のサービス」と「本番があること」の位置関係が相対的に近く、「コンドーム使用が必須」がもっとも遠くなっていることから、本番系サービスを志向する顧客は、潜在的に「生のサービス」を志向し、コンドーム使用への回避傾向があることも考えられる。本番系業態では単価が高いこともあり、次年度以降調査では、支払う値段とサービスの釣り合い、「生」志向との関係といった心理的要因にも、注目していく必要がある。

主成分分析の結果では、「コンドーム使用が必須」という項目は第 I 成分「衛生管理が行き届き清潔感があること」でも主成分係数が相対的に低かった。接客女性や施設にたいする衛生管理は重視するが、みずからが使用しなければならないコンドームは除外したいという傾向性があるのではと考えられる。

#### 4)健康リスクの認知

年齢にかかわらず、エイズにかかるリスクより性感染症にかかるリスクを低く見積もる傾向が見受けられた。性感染症にたいする啓発が不足していることが推察される。

### 5. 自己評価

#### 1) 達成度について

今回の調査結果より、「男性顧客層」として従来ひとくくりにとらえられてきた対象者集団に、暫定的ではあるが、いくつかの下位集団を設定することができた。このことによって、対象者への具体的なアプローチが画策しやすくなり、研究結果から具体的施策への接続が促進される。

本年度の調査結果から、来年度以降の継続調査で取り扱うべき内容が明らかになった。

#### 2) 研究成果の学術的・国際的・社会的意義について

国内外の先行研究では、対象を性娯楽産業の男性利用者に限り、その意識・行動を調査内容とした大規模な調査(標本総数1,000以上)は先例がない。

また、大衆メディア(週刊誌)との共同企画が実現したことにより、以下のような特色ある研究となった。

- ・ 調査の実施、およびその成果報告の記事掲載が、対象の、エイズ・性感染症についての予防啓発の契機ともなった。
- ・ 募集法による学術調査の実施例となった。性にかんする調査内容である、インセンティブ希望者は記名調査であるにもかかわらず、回答者数が2,000名を越え、また、第二次調査への協力許可者が7割と高率なことなど、調査方法論上、評価・検討すべき点が認められた。

#### 3)今後の展望について

次年度以降の継続調査の結果と合わせ、

- ・ 性娯楽産業の男性顧客層をその健康ニーズ(属性・行動傾向等)により、下位集団を設定する
- ・ 下位集団ごとの健康教育ガイドラインを提案する

### 6. 結論

日本における成人異性愛男性の性娯楽産業利用状況およびHIV/STDs予防にかんする意識・行動を募集法(公称60万部発行男性週刊誌、自記式質問紙、マークシート式ハガキによる郵送回収)により調査した(n=1,784,2007年11月)。

その結果、

① 男性顧客層は「若年者中心の店舗型ヘルス利用者」「中年層以降のソーブランド利用者」「地方在住のバー・スナック連れ出し利用者」「コンドーム使用が低率なピンクサロン利用者」の4つが重要な下位集団である可能性が示唆された。

② サービスに挿入行為(口・膣・肛門)が含まれていたときのコンドーム使用率は67.0%であったが、28.2-100.0%と業態によってばらつきが大きかった。

③ 性娯楽サービスの選択基準では「生のサービス」はとくに重視されていなかったが、本番系サービスを志向する顧客では、同時に、表立たない「生」志向をもつ可能性が示唆された。

④ 年齢にかかわらず、性感染症に感染する可能性をエイズより低く見積もる傾向が明らかになった。

以上の結果より、次年度以降の課題として、男性顧客層の下位集団とその健康ニーズをより明確化することが導き出された。

### 7. 知的所有権の出願・取得状況(予定を含む)

特記事項はなし

## 付表 I

I. ご自身についてお尋ねいたします。以下のことがらについて、ご自身にあてはまる回答選択肢を選び、回答用紙にマークしてください。

### 1. ご年齢

	度数	パーセント	累積パーセント
23～25歳	18	1.0	1.0
26～30歳	58	3.3	4.3
31～35歳	110	6.2	10.4
36～40歳	165	9.2	19.7
41～45歳	260	14.6	34.2
46～50歳	312	17.5	51.7
51～55歳	283	15.9	67.6
56～60歳	264	14.8	82.4
61～65歳	143	8.0	90.4
66～70歳	82	4.6	95.0
71～75歳	54	3.0	98.0
76歳以上	35	2.0	100.0
合計	1,784	100.0	

### 2. ご職業

	度数	パーセント	累積パーセント
① 学生	7	0.4	0.4
② 会社員(事務系)	228	12.8	13.2
③ 会社員(技術系)	192	10.8	23.9
④ 会社員(現場従事)	292	16.4	40.3
⑤ 会社管理職(事務系・技術系)	222	12.4	52.7
⑥ 公務員	132	7.4	60.1
⑦ 自営業	392	22.0	82.1
⑧ 自由業	57	3.2	85.3
⑨ 無職	171	9.6	94.9
⑩ その他	89	5.0	99.9
無回答	2	0.1	100.0
合計	1,784	100.0	

### 3. 最終学歴

	度数	パーセント	累積パーセント
① 小学校	4	0.2	0.2
② 中学校	90	5.0	5.3
③ 高校	654	36.7	41.9
④ 専門学校	203	11.4	53.3
⑤ 短大	44	2.5	55.8
⑥ 大学	739	41.4	97.2
⑦ 大学院	39	2.2	99.4
⑧ その他	9	0.5	99.9
無回答	2	0.1	100.0
合計	1,784	100.0	

### 4. あなたが1ヶ月に自由に使えるお金(お小遣い)はいくらぐらいですか？

	度数	パーセント	累積パーセント
① 1万円未満	47	2.6	2.6
② 1万～3万円未満	329	18.4	21.1
③ 3万～5万円未満	601	33.7	54.8
④ 5万～10万円未満	543	30.4	85.2
⑤ 10万～20万円未満	164	9.2	94.4
⑥ 20万円以上	99	5.5	99.9
無回答	1	0.1	100.0
合計	1,784	100.0	

5. あなたの現在の婚姻関係や特定のパートナーの有無を伺います。ここでいう特定のパートナーとは、恋人、愛人、婚約者、事実婚の妻、内縁の妻などを指します。

	度数	パーセント	累積パーセント
① 結婚している(妻がいる)	1,066	59.8	59.9
② 結婚しているが、妻のほかに特定のパートナーがい	191	10.7	70.6
③ 結婚していないが、特定のパートナーがいる	204	11.4	82.1
④ 現在、特定のパートナーはいない	319	17.9	100.0
合計	1,780	99.8	
無回答	4	0.2	
合計	1,784	100.0	

II. 以下より、あなたの性風俗経験についてお聞きします。なお、今回のアンケートでは、女性が接客した場合についてのみお答えください。

6. これまで、以下の性風俗サービスを利用したことがありますか？ あるものの番号をすべて選んでください。

(複数回答, n=1,784)

	度数	パーセント
ソープランド(個室付浴場)	1,357	76.1
店舗型ファッションヘルス(ヘルス、ファッションマッサージ、イメージクラブ、性感マッサージ、ソフトSM)	1,036	58.1
ピンクサロン、ヌキキャバ	883	49.5
ストリップ劇場	852	47.8
派遣型ファッションヘルス(デリバリーヘルス、出張マッサージ)	499	28.0
バー・スナック・クラブなどの女性とのショート(短時間の連れ出し)あるいはロング(外泊)	435	24.4
派遣型デートクラブ、ホテル、エスコートサービス	390	21.9
温泉コンパニオンなどとのショート(短時間の連れ出し)あるいはロング(外泊)	388	21.7
接待型料理店(旧遊郭、ちよんのみ)	367	20.6
風俗系エステ	365	20.5
ビデオBOX、ビデオ個室鑑賞	333	18.7
出会い系サイト、テレクラ・Q2・伝言ダイヤルを通じた女性との援助交際、個人売春	320	17.9
街娼(立ちんぼ)	235	13.2
その他	110	6.2
有料の乱交パーティー、スワッピング・パーティー	60	3.4
SMクラブ・SMバブ	51	2.9

●利用したことのある性風俗サービスの種類数

	度数	パーセント	累積パーセント
1	182	10.2	10.2
2	283	15.9	26.1
3	320	17.9	44.0
4	288	16.1	60.1
5	238	13.3	73.5
6	154	8.6	82.1
7	111	6.2	88.3
8	90	5.0	93.4
9	47	2.6	96.0
10種以上	71	4.0	100.0
合計	1,784	100.0	

7. 上記(設問6)で回答したもののうち、あなたがもっともよく利用するサービスの番号を3つ以内で挙げてください。  
(複数回答3点まで、n=1,784)

	度数	パーセント
ソープランド(個室付浴場)	827	46.4
店舗型ファッションヘルス(ヘルス、ファッションマッサージ、イメージクラブ、性感マッサージ、ソフトSM)	689	38.6
ピンクサロン、ヌキキャバ	366	20.5
派遣型ファッションヘルス(デリバリーヘルス、出張マッサージ)	270	15.1
風俗系エステ	200	11.2
バー・スナック・クラブなどの女性とのショート(短時間の連れ出し)あるいはロング(外泊)	176	9.9
派遣型デートクラブ、ホテル、エスコートサービス	149	8.4
ストリップ劇場	145	8.1
出会い系サイト、テレクラ・Q2・伝言ダイヤルを通じた女性との援助交際、個人売春	144	8.1
接待型料理店(旧遊郭、ちよんのみ)	131	7.3
温泉コンパニオンなどとのショート(短時間の連れ出し)あるいはロング(外泊)	129	7.2
ビデオBOX、ビデオ個室鑑賞	127	7.1
街娼(立ちんぼ)	48	2.7
その他	48	2.7
SMクラブ・SMパブ	20	1.1
有料の乱交パーティー、スワッピング・パーティー	19	1.1

●もっともよく利用する性風俗サービスの種類数

	度数	パーセント	累積パーセント
1	651	36.5	36.5
2	432	24.2	60.7
3	634	35.5	96.2
3点以上	13	0.8	97.0
無回答	54	3.0	100.0
合計	1,784	100.0	

8. これまでに性風俗店で受けたことのあるサービスを、以下の選択肢よりすべてお選びください。  
(複数回答、n=1,784)

	度数	パーセント
手こぎ(女性の手によってペニスを刺激して)	1,366	76.6
本番(コンドーム装着)	1,317	73.8
生フェラ(コンドームなしのオーラルセックス)	1,262	70.7
ディープ・キス(濃厚なキス)	1,163	65.2
クニノクニリングス(女性性器をなめる)	1,020	57.2
玉なめ(女性に睾丸を舌で刺激してもらう)	1,009	56.6
全身リップ(身体を女性の舌で刺激してもらう)	985	55.2
指入れ(男性の指を膣あるいは肛門に入れる)	830	46.5
本番(コンドームなし、中出し)	810	45.4
ゴムフェラ(コンドームをつけたオーラルセックス)	784	43.9
口内射精で「ごっくん」なし(精液は飲まない)	783	43.9
素股(挿入せずに、女性の股間でペニスを刺激してもらう)	749	42.0
アナルなめ(女性に肛門を舌で刺激してもらう)	667	37.4
本番(コンドームなし、外出し)	662	37.1
口内射精で「ごっくん」(精液を飲み込む)	423	23.7
前立腺/アナルマッサージ	307	17.2
アナルセックス(コンドーム装着)	190	10.7
顔射(相手の女性の顔に向けて射精する)	149	8.4
アナルセックス(コンドームなし)	101	5.7

9. 過去1年間に、9に挙げた行為を伴う性風俗を何回ぐらい利用しましたか？およその数でお答えください。

	度数	パーセント	累積パーセント
①1-2回	384	21.5	21.5
②3-5回	351	19.7	41.2
③6-10回	232	13.0	54.2
④11-20回	174	9.8	64.0
⑤21-30回	51	2.9	66.8
⑥30回以上	37	2.1	68.9
⑦この1年間に利用しなかった	555	31.1	100.0
合計	1,784	100.0	100.0

Ⅲ. 以下より、ご自身の一番最近の性風俗利用についておたずねいたします。

10. そのとき風俗を利用した主たる動機(あるいは理由)はなんでしょうか。以下の選択肢より当てはまるものをすべてお答えください。

(複数回答, n=1,784)

	度数	パーセント
性欲解消の手段として	1,018	57.1
出張先・旅行先の楽しみとして	632	35.4
風俗はあとくされがないから	577	32.3
妻や特定のパートナーとは違う刺激を求めて・違った女性とのセックスを体験したかったので	574	32.2
風俗の方が簡単にセックスできるから、食事やデートなどの段取りなしでセックスできるから	427	23.9
友人・知人・先輩に誘われて	401	22.5
普段できないことをしたかったので、いろいろなプレイが楽しめるから	262	14.7
風俗店の女性の方が気楽につきあえるため	249	14.0
癒されたくて、人恋しくて、ぬくもりが欲しかったので	240	13.5
現在、妻や特定のパートナーがいないため	229	12.8
好奇心から	206	11.5
妻や特定パートナーとセックスできない状態(妊娠、別居、多忙等)だったので	202	11.3
妻や特定パートナーとの関係がうまくいっていないため	166	9.3
なじみの風俗嬢の顔が見たかったから	166	9.3
セックスの経験を積みたかったので	102	5.7
店側から誘われたから(なじみの風俗嬢からメール、電話をもらった。勧誘された)	72	4.0
その他	62	3.5

11. 引き続き、ご自身の、一番最近の風俗利用についてお尋ねいたします。それはどういった種類の性風俗でしたか？ 設問6の選択肢からひとつお選びください。

	度数	パーセント
ソープ	486	27.2
店舗型ヘルス	448	25.1
派遣型ヘルス	156	8.7
ピンサロ	120	6.7
バー・スナック	104	5.8
温泉コンパニオン	71	4.0
派遣型デートクラブ	65	3.6
ビデオ個室鑑賞	58	3.3
風俗系エステ	56	3.1
出会い系	55	3.1
その他	49	2.7
旧遊郭、ちゃんのみ	45	2.5
ストリップ劇場	41	2.3
街娼	15	0.8
SMクラブ	9	0.5
パーティー	6	0.3
合計	1,784	

12. (設問11より)その行為(サービス)には、挿入行為(口・膣・肛門)を伴いましたか？

	度数	パーセント	累積パーセント
① はい	1,354	75.9	76.0
② いいえ	428	24.0	100.0
合計	1,782	99.9	
無回答	2	0.1	
合計	1,784	100.0	

13. (設問12より)その行為(サービス)には、いくら支払いましたか？

	度数	パーセント	累積パーセント
① 5000円未満	151	8.5	8.5
② 5000円～1万円未満	320	17.9	26.6
③ 1万円～3万円未満	1,056	59.2	86.3
④ 3万円～5万円未満	203	11.4	97.7
⑤ 5万円～10万円未満	28	1.6	99.3
⑥ 10万円以上	12	0.7	100.0
合計	1,770	99.2	
無回答	14	0.8	
合計	1,784	100.0	

14. (設問13より)その時接客した女性は、日本語を母国語とする人でしたか？

	度数	パーセント	累積パーセント
① おそらくそうである(日本人である)	1,557	87.3	87.9
② おそらくそうではない(日本人ではない)	171	9.6	97.6
③ わからない	43	2.4	100.0
合計	1,771	99.3	
無回答	13	0.7	
合計	1,784	100.0	

15. (設問14より)一番最近の性風俗利用で、あなたはコンドームを使用しましたか？

	度数	パーセント	累積パーセント
① 接客した女性あるいは店が準備していたコンドームを使用した	863	48.4	49.0
② 使用したラブホテルに備え付けのコンドームを使用した	148	8.3	57.4
③ 自分が用意していたコンドームを使用した	112	6.3	63.8
④ 使用しなかった	638	35.8	100.0
合計	1,761	98.7	
無回答	23	1.3	
合計	1,784	100.0	

16. リポートしたくなる風俗店の基準として、次の点をどの程度重視しますか？「全く重視しない」から「非常に重視する」までの4段階でお答えください。

① 接客する女性がじぶんの好みであること・接客態度がよいこと

	度数	パーセント	累積パーセント
全く重視しない	132	7.4	7.4
あまり重視しない	146	8.2	15.7
重視する	772	43.3	59.1
非常に重視する	726	40.7	100.0
合計	1,776	99.6	
無回答	8	0.4	
合計	1,784	100.0	

② サービス内容・オプションに本番が入っていること

	度数	パーセント	累積パーセント
全く重視しない	208	11.7	11.8
あまり重視しない	646	36.2	48.4
重視する	623	34.9	83.6
非常に重視する	289	16.2	100.0
合計	1,766	99.0	
無回答	18	1.0	
合計	1,784	100.0	

③ じぶんにとって手ごろな価格であること

	度数	パーセント	累積パーセント
全く重視しない	69	3.9	3.9
あまり重視しない	205	11.5	15.5
重視する	1,003	56.2	72.1
非常に重視する	495	27.7	100.0
合計	1,772	99.3	
無回答	12	0.7	
合計	1,784	100.0	

④ 安全に遊べること(ユスリ, ポッタクリ, 脅し, ヤクザの介入がないこと)

	度数	パーセント	累積パーセント
全く重視しない	55	3.1	3.1
あまり重視しない	81	4.5	7.7
重視する	588	33.0	40.9
非常に重視する	1,045	58.6	100.0
合計	1,769	99.2	
無回答	15	0.8	
合計	1,784	100.0	

⑤ 生フェラ・ゴムなしの本番など生のサービスが受けられること

	度数	パーセント	累積パーセント
全く重視しない	239	13.4	13.5
あまり重視しない	780	43.7	57.7
重視する	544	30.5	88.5
非常に重視する	203	11.4	100.0
合計	1,766	99.0	
無回答	18	1.0	
合計	1,784	100.0	

⑥ 入りやすい店構えであること、店内の雰囲気明るいこと

	度数	パーセント	累積パーセント
全く重視しない	77	4.3	4.4
あまり重視しない	426	23.9	28.4
重視する	987	55.3	84.2
非常に重視する	279	15.6	100.0
合計	1,769	99.2	
無回答	15	0.8	
合計	1,784	100.0	

⑦ プライバシーが保たれること、個人情報を守られること

	度数	パーセント	累積パーセント
全く重視しない	67	3.8	3.8
あまり重視しない	220	12.3	16.2
重視する	779	43.7	60.3
非常に重視する	702	39.3	100.0
合計	1,768	99.1	
無回答	16	0.9	
合計	1,784	100.0	

⑧ 店全体に清潔感があること、個室の衛生管理がしっかりしていること

	度数	パーセント	累積パーセント
全く重視しない	42	2.4	2.4
あまり重視しない	140	7.8	10.3
重視する	897	50.3	61.0
非常に重視する	690	38.7	100.0
合計	1,769	99.2	
無回答	15	0.8	
合計	1,784	100.0	

⑨ 店や接客する女性がエイズや性感染症の予防に気を配っていること

	度数	パーセント	累積パーセント
全く重視しない	43	2.4	2.4
あまり重視しない	92	5.2	7.6
重視する	568	31.8	39.7
非常に重視する	1,066	59.8	100.0
合計	1,769	99.2	
無回答	15	0.8	
合計	1,784	100.0	

⑩ 店や接客する女性が必ずコンドームを使うこと

	度数	パーセント	累積パーセント
全く重視しない	128	7.2	7.3
あまり重視しない	658	36.9	44.6
重視する	634	35.5	80.6
非常に重視する	342	19.2	100.0
合計	1,762	98.8	
無回答	22	1.2	
合計	1,784	100.0	

IV. ご自身のふだんのコンドーム使用についてお伺いいたします。

17. あなたは性風俗以外のセックスでコンドームを使いますか？

	度数	パーセント	累積パーセント
① 常に使用する	347	19.5	19.5
② ほとんど使用する	342	19.2	38.7
③ ときどき使用する	346	19.4	58.1
④ ほとんど使用しない	431	24.2	82.3
⑤ まったく使用しない	234	13.1	95.4
⑥ 性風俗以外でセックスをしたことがない	82	4.6	100.0
合計	1,782	99.9	
無回答	2	0.1	
合計	1,784	100.0	

18. あなたは性風俗でフェラチオ(オーラル・セックス)を受けるとき、コンドームを使いますか？

	度数	パーセント	累積パーセント
① 常に使用する	145	8.1	8.2
② ほとんど使用する	185	10.4	18.6
③ ときどき使用する	324	18.2	36.9
④ ほとんど使用しない	692	38.8	76.0
⑤ まったく使用しない	322	18.0	94.1
⑥ 性風俗でフェラチオ(オーラル・セックス)をしたことがない	104	5.8	100.0
合計	1,772	99.3	
無回答	12	0.7	
合計	1,784	100.0	

19. あなたは性風俗で膣挿入(セックス、本番)をするとき、コンドームを使いますか？

	度数	パーセント	累積パーセント
① 常に使用する	671	37.6	37.9
② ほとんど使用する	442	24.8	62.9
③ ときどき使用する	325	18.2	81.2
④ ほとんど使用しない	166	9.3	90.6
⑤ まったく使用しない	63	3.5	94.2
⑥ 性風俗で膣挿入(セックス、本番)をしたことがない	103	5.8	100.0
合計	1,770	99.2	
無回答	14	0.8	
合計	1,784	100.0	

20. あなたは性風俗で肛門挿入(アナルセックス)をするとき、コンドームを使いますか？

	度数	パーセント	累積パーセント
① 常に使用する	272	15.2	15.4
② ほとんど使用する	56	3.1	18.6
③ ときどき使用する	38	2.1	20.8
④ ほとんど使用しない	32	1.8	22.6
⑤ まったく使用しない	21	1.2	23.8
⑥ 性風俗で肛門挿入(アナルセックス)をしたことがない	1,344	75.3	100.0
合計	1,763	98.8	
無回答	21	1.2	
合計	1,784	100.0	

IV. ご自身の健康についてお伺いいたします。

21. これからの人生で、あなた自身が次の病気にかかる可能性はどれくらいあると思いますか？「全くない」から「大いにある」までの5段階でお答えください。

① 風邪やインフルエンザ

風邪やインフルエンザ	度数	パーセント	累積パーセント
全くない	81	4.5	4.6
おそらくない	94	5.3	9.8
あるかもしれない	390	21.9	31.8
おそらくある	460	25.8	57.6
大いにある	754	42.3	100.0
合計	1,779	99.7	
無回答	5	0.3	
合計	1,784	100.0	

② ガン・脳卒中・心筋梗塞

ガン・脳卒中・心臓病	度数	パーセント	累積パーセント
全くない	82	4.6	4.6
おそらくない	170	9.5	14.2
あるかもしれない	848	47.5	61.9
おそらくある	405	22.7	84.6
大いにある	273	15.3	100.0
合計	1,778	99.7	
無回答	6	0.3	
合計	1,784	100.0	

③ 性感染症(HIV/AIDS以外の性感染症)

性感染症	度数	パーセント	累積パーセント
全くない	387	21.7	21.8
おそらくない	875	49.0	71.1
あるかもしれない	454	25.4	96.7
おそらくある	36	2.0	98.8
大いにある	22	1.2	100.0
合計	1,774	99.4	
無回答	10	0.6	
合計	1,784	100.0	

④ エイズ(HIV/AIDS)

エイズ	度数	パーセント	累積パーセント
全くない	268	15.0	15.1
おそらくない	672	37.7	53.1
あるかもしれない	692	38.8	92.2
おそらくある	87	4.9	97.1
大いにある	51	2.9	100.0
合計	1,770	99.2	
無回答	14	0.8	
合計	1,784	100.0	

⑤ クロイツフェルト・ヤコブ病(BSE感染症、狂牛病)

BSE感染症	度数	パーセント	累積パーセント
全くない	577	32.3	32.9
おそらくない	892	50.0	83.8
あるかもしれない	250	14.0	98.0
おそらくある	17	1.0	99.0
大いにある	18	1.0	100.0
合計	1,754	98.3	
無回答	30	1.7	
合計	1,784	100.0	

22. あなたの周囲にはエイズやそのほかの性感染症(クラミジア, ヘルペス, 淋病, 毛じらみ, 梅毒など)にかかった経験のある人はいますか? あてはまるものすべてにマークしてください。

(複数回答, n=1,784)

	度数	パーセント
① エイズ(HIV/AIDS)にかかった経験のある人を直接知っている。	43	2.4
② エイズ(HIV/AIDS)にかかった経験のある人の話を聞いたことがある。	113	6.3
③ エイズ(HIV/AIDS)にかかった経験のある人をまったく知らない。	868	48.7
④ エイズ以外の性感染症にかかった経験のある人を直接知っている。	579	32.5
⑤ エイズ以外の性感染症にかかった経験のある人の話を聞いたことがある。	660	37.0
⑥ エイズ以外の性感染症にかかった経験のある人をまったく知らない。	492	27.6

23. あなた自身はこれまでに何らかの性感染症にかかったことがありますか?

	度数	パーセント	累積パーセント
① ある	449	25.2	25.2
② ない	1,195	67.0	92.2
③ わからない	122	6.8	99.0
無回答	18	1.0	100.0
合計	1,784	100.0	

24. あなた自身はこれまでにエイズの検査(HIV抗体検査)を受けたことがありますか?

	度数	パーセント	累積パーセント
① ある	438	24.6	24.6
② ない	1,323	74.2	98.7
無回答	23	1.3	100.0
合計	1,784	100.0	

#### Ⅶ. 性風俗の利用経験に関する第二次調査アンケート送付について

47. 当アンケートに引き続き、「東班」では、男性の性風俗利用経験をより詳しくお伺いする第二次調査の実施を計画しております。この第二次調査にご関心のある方・ご協力いただける方には、別途、アンケート用紙を郵送させていただきますが、ご協力いただけますでしょうか？

	度数	パーセント	累積パーセント
① 協力してもよい	1,285	72.0	74.0
② 協力できない	451	25.3	100.0
合計	1,736	97.3	
無回答	48	2.7	
合計	1,784	100.0	